

新たなミュージアムに関する基本計画懇談会 個別ヒアリング実施結果（摘録）

1 日 時 令和6年7月29日（月） 午後2時00分～3時00分

2 開催方法 オンライン会議システムを活用して実施

3 対象者

（1）委員 金子委員

（2）事務局 市民文化局市民文化振興室：井上担当課長、里舘担当課長、
廣居課長補佐、植木担当係長

4 公開・非公開の別 非公開

5 意見聴取

（1）新たなミュージアムの事業活動について

（2）新たなミュージアムの施設計画について

（3）その他

※令和6年7月5日（金）に開催した第4回新たなミュージアムに関する基本計画懇談会
と同様の資料を用いて意見交換を実施

6 実施結果

（1）新たなミュージアムの事業活動について

- ・ 内容はよいと思うが、市民にわかりやすく具体的な目標を示せるとよりよい。
- ・ 施設規模を踏まえると、博物館分野のテーマは広く「生活」や「暮らし」などと設定し、美術館分野のテーマは既存のものよりも絞って設定することで、川崎市のミュージアムを特徴づけられるのではないかと。
- ・ 川崎市の立地を踏まえると、他都市のミュージアムに依存してもよいものもあるはずなので、川崎市は川崎市がやるべきことを示した方がよい。
- ・ 「まちなかミュージアム」については、「拠点施設」と同時に議論すべきものなのか。「まちなかミュージアム」は、「地域共創機能」や「ラーニング機能」を目的とした、ソフトの要素が強いと考える。まずは、まちなかミュージアムでどのようなことをやっていくのかを整理し、それには「拠点施設」で何を収集、探求する必要があるのか、わかりやすく示せるとイメージしやすい。
- ・ 常設展示テーマ「水と共同体」は、市民ではない自分の目線からはわかりにくい。これを機にリセットしてもよいのではないかと。常設展示は、新たなミュージアムでやっ

ていくことの根幹で、大きな特徴にもなるので、じっくり検討してよいと考える。

(2) 新たなミュージアムの施設計画について

- ・ このような整理でよいが、今後「どのようなミュージアムになるのか」についても具体的なイメージを示せるとよい。
- ・ 「『アクセス性、回遊性』に関すること」と「『周辺施設との連携』に関すること」は併せて検討し、「エリア全体としてどうしていくべきか」ということも今後示してほしい。
- ・ 新たなミュージアムの開設地が生田緑地に決定した場合には、「新たなミュージアムの加わった、新しい生田緑地をどう整備していくか」と「新たなミュージアムの建築物としての整理」を並行して検討していくことが望ましい。
- ・ 生田緑地内の他の文化施設についても、各施設の役割分担や施設利用のあり方を整理し、空間を共有できるものと個別に設けなければならないものについてこの機会に検討できるとよい。

以 上

新たなミュージアムに関する基本計画懇談会 個別ヒアリング実施結果（摘録）

1 日 時 令和6年8月28日（水） 午後3時00分～4時10分

2 開催方法 オンライン会議システムを活用して実施

3 対象者

（1）委員 熊谷委員

（2）事務局 市民文化局市民文化振興室：井上担当課長、里舘担当課長、
植木担当係長、篠田職員

4 公開・非公開の別 非公開

5 意見聴取

（1）新たなミュージアムの事業活動について

（2）新たなミュージアムの施設計画について

（3）その他

※令和6年7月5日（金）に開催した第4回新たなミュージアムに関する基本計画懇談会
と同様の資料を用いて意見交換を実施

6 実施結果

（1）新たなミュージアムの事業活動について

- ・ 資料にあるように、川崎市がどういふところなのかわかる空間で、常設展示だけでなく収蔵庫展示という新しいかたちでも実物の展示機会を拡充していくことは重要である。
- ・ 展示しきれない収蔵品もあると思うため、収蔵庫展示によって、より多くの収蔵品を見られるようになることは素晴らしい。
- ・ 市民の鑑賞体験としてのラーニングプログラムの拡充は望ましい。
- ・ 『TAMA VOICES※』として活動している中で、文化活動に関心の高い市民の多さを肌で感じているため、市民の自主的な活動をさらに促すような仕組みがあるとよい。収蔵品の活用を通じて、その仕組みづくりを市民ミュージアムの周辺プログラムとして位置付けるなど、ミュージアムと市民の連携のためのフレームがあるとよいのではないか。

※ 多摩区周辺のアーティスト、キュレーター、アート・コミュニケーターなどによる、ご近所アートコレクティブ。メンバーで市民参加型アートプロジェクトや、トーク交流会等を不定期に開催するなど、随時活動の紹介をしながら、仲間の募集をしている。

- ・ 市民のアート活動のコアになる期間を設けたり、公募事業を実施し、市民の活動を一覧で見えるようにすることで、すでに行われている活動をつなげることができる。そのプラットフォームの役割を「まちなかミュージアム」が担い、新たな交流を生み出す場となれば、「まちなかミュージアム」の潜在的なポテンシャルがより活きるのではないかと考える。
- ・ 例えば、大分県別府市のプログラムである『ベップ・アート・マンス』は、「この時期は市を挙げてのアート月間なので、ぜひ皆さん色々ことをやってください」という、市と市民のアート活動が連携する期間がある。その期間には、公募で集まった市民の表現活動や交流活動などの一覧を『ベップ・アート・マンス』のチラシやホームページに掲載したり、市と市民が連携して広報を行うなどして、盛り上がっている。
- ・ また、横浜市では、市民の活動を公募し、少額ではあるが助成金を出すことで、市民活動の見える化が可能となっている。
- ・ 博物館と美術館の融合は、市民ミュージアムの特徴であるため、双方の分野が関わり合う展示があると、魅力的かつ個性のある展示が生まれると考える。
- ・ 最近では、資料から歴史を読み解いて、鑑賞者に考えてもらうような展示をつくるアーティストもいる。そのため、学芸員だけではなく、アーティストや外部の研究機関などを招聘して、市の特徴的な資料を長期的にリサーチして、新たな視点の展示を組み立てるようなプログラムを実施してみても面白い。併せて、デジタルアーカイブの拡充によって、事前に資料をリサーチし、実現を見ながら仮想展示を考えることも可能となる。
- ・ 例えば『国際芸術センター青森』では、青森市の市立資料館の資料を展示するとともに、資料の新たな展示や見せ方を公募し、招聘した現代アーティストに展示をつくってもらう取組も行っている。
- ・ 様々な文化事業や施設を拝見する中で、専門人材がミュージアムに根付くことの重要性を感じる。新たなミュージアムにおいても、学芸員はもちろん、ことラーやボランティアの方などがミュージアムに継続的に関わり続けられるような、人を育てて繋ぎとめられる仕組みがあるとよい。

(3) 新たなミュージアムの施設計画について

- ・ 「展示スペース」だけでなく、市民の「活動スペース」も重要である。ミュージアムの性質として、資料や作品の鑑賞だけではなく、交流や活動の拠点として市民の居場所になることが重視される傾向にあるため、多目的に使用できるスペースが設けられるとよい。
- ・ 他施設でも多様な方が利用しやすくなるように様々な検討がなされているため、そういった取組も参考にしながら進めていくことが望ましい。
- ・ 施設設備の充実も重要だが、ハードを使いこなせるように、障害や困難を抱えている方が来館した際にしっかり相談にのれるような専門の窓口の設置や、専門人材の育成と

いうソフト面も重要だと考える。

- ・ 新たなミュージアムを生田緑地に開設することになれば、生田緑地は市内文化施設の集積地となる。それにあたり、緑地内の物理的な回遊性の向上だけでなく、回遊を促すプログラムやコンテンツの提供も重要になってくる。例えば、1日を通じて楽しめるように、わかりやすいマップや、「生田緑地をこのように回ると1日たっぷり楽しめて、学んだり、交流することもできる」というおすすめのコースのようなものを提供できるとよい。

以 上